

平成23年度 宮崎県立高鍋高等学校 自己評価書

平成24年3月14日

◎右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する  
 ◎1ページ目の学校の重点目標4項目に関する評価は、2ページ以降の、各校務分掌等の関係項目の評価値を平均したものである。

教育目標	伝統的教育理念を根幹に据え、知を学び、徳を学び、心身の鍛錬に努め、社会に貢献する生徒の育成を目指す教育を推進することにより、保護者や地域の信頼、期待、ニーズ等に応えられる学校を構築する。			
学校経営ビジョン	「文武両道」「師弟同行」「身心學道」「真善美」「集中・機敏・奉仕」の伝統的教育理念を根幹に据え、知を学び、徳を学び、心身の鍛錬に努め、社会に貢献する人間の育成を目指す教育を推進することにより、保護者や地域の信頼、期待、ニーズ等に応えられる学校を構築する。「生徒の可能性を最大限に伸ばす高鍋高校」「保護者や地域に信頼される高鍋高校」を学校スローガンとして、全教職員で一丸となって（各部、各学年等でもスローガン作成）取り組む。			
重点目標	目標到達のための手段（○数字は本年度特に重点的に取り組むもの）	評価	総括（○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの）	評議員等による評価
1 知的行動人の育成（学力向上・進路実現）	① キャリア教育の充実を図り、進路目標を明確にさせる。 ② 授業研究、教科研修会の充実や「生徒による授業評価」の活用等により、教師が授業力を磨く。 ③ 自宅学習の時間を増やす工夫をする。 ④ 学力に応じた少人数指導・習熟度別指導を導入し、基礎的・基本的事項の定着並びに上位層対策を行う。 ⑤ 読書指導、小論文指導、資格取得指導を計画的に実施する。 ⑥ 学力検討会の充実（分析・対策）。	3	○キャリア教育に関する生徒研修や職員研修を実施し、意識啓発に努めた。 ●普通科高校におけるキャリア教育に関する全体計画に着手したが、具体的な実施についてはこれからである。 ○後期研究授業は、グループ学習という共通テーマを設定し、授業研究が活性化した。 ●授業評価の実施時期については、P D C Aサイクルが徹底しにくい部分があるので改善が必要である。 ●学力の伸びは見られるが、学力格差が広がり、それぞれの層に対する指導方法の確立が課題である。 ○読書、小論文、資格取得等の指導が組織的に行われ、成果をあげた。 ●明倫（総合的な学習）の時間をキャリア教育の視点から充実させることが必要である。	
2 豊かな心の醸成（基本的生活習慣の確立）	① 挨拶、時間厳守、服装・容儀など基本的生活習慣の確立を図ると共に、自主性・積極性を養う。 ② 「師弟同行」「集中・機敏・奉仕」の理念のもと環境美化意識の啓発に努める。 ③ 小中高連携、地域社会との連携による社会体験活動を計画的に実施する。 ④ 道徳教育、人権教育、特別支援教育、教育相談の充実を図り、心の教育を推進する。	3	○挨拶、服装、容儀等は概ね確立しており、全体的に品性ある落ち着いた学校生活が送れた。 ○美化活動や地域の奉仕活動にも積極的に取り組み、一定の成果をあげた。 ●交通マナー等については、今後も継続して指導する必要がある。 ●入学してくる生徒の規範意識や基本的生活習慣が、年々低下する傾向があるため、今後も継続的な指導が必要である。	
3 心身の鍛錬（文武両道の推進）	① 部活動への参加を促進し、内容の充実に努め、活動実績の向上を図る。 ② 「文武両道」実現のために、全職員共通理解のもとに、部活動の活動時間を厳守する。 ③ 学校行事への積極的な参加を推進する。 ④ 食育と健康安全教育の推進を図る（弁当の日）。	3	○多くの生徒が部活動に参加し、各部が良い結果を残し、特にラグビー部は全国大会出場を果たした。 ○文化部が活性化し、各種大会での入賞や、高い評価を得た。 ○行事を生徒会を中心に運営し、文化祭等の行事を成功させることができた。 ●部活動の活動時間厳守については、不徹底な部分が残る、今後の課題である。 ●弁当の日は実施したが、普通科への浸透が課題である。	

<p>4 保護者や地域に信頼される学校</p>	<p>1 学校公開（広く一般向け）とオープンスクール（中学生向け）の工夫改善を図る。  2 広報活動をさらに推進するため、積極的に小中学校を訪問し、本校をアピールする。  3 保護者に対して、行事への参加を積極的に促す。  4 ホームページの随時更新と広報誌・パンフレット・ポスター・ゲートボードを充実する。  5 中高連携を推進する。</p>	<p>3.2</p>	<p>○オープンスクールを生徒が運営に参加する形で実施し、多くの中学生と交流することができた。  ○出前授業や学校訪問を積極的に行い、中学生に本校の良さを知って貰うことができた。  ○文化祭や体育祭に多くの保護者が見学に訪れ、本校の教育活動を知って貰うことができた。  ●積極的な広報活動にもかかわらず、志願者減の傾向を止めることはできなかった。今後は新たな方策が必要である。</p>	
-------------------------	--	------------	--	--

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4：十分達成できた 3：概ね達成できた 2：やや期待を下回る 1：不十分であり改善を要する													
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科	
1 知的行動人の育成（学力向上・進路実現）		○		○	○			○		○	○	○	○	○	
2 豊かな心の醸成（基本的な生活習慣の確立）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 心身の鍛錬（文武両道の推進）			○		○	○	○				○	○	○	○	
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	
分掌学年	重点目標との関連	評価項目（目標）	評価指標・数値目標（手段・ゴールイメージ）		方策・手立て（具体的取り組み）				前期評価	後期評価	総括	成果と課題（○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの）			
教務部	1	1. 教科指導力の向上	1. 研究授業参観率の向上 2. 「生徒による授業評価」の平均値を高める。 3. 自習時間を減らしていく。		1. 他教科からの参観を呼びかけると同時に、実施者の検討会の充実を図る。 2. 生徒の学力向上との関連性を検討し、企画・提案する。 3. 特編・振替等での対応を図る。				3.1	3.1	3.1	○後期の研究授業は他教科の参観者の増加が見られた。 ●授業評価については、実施時期を早め(6月)にし、職員・生徒への還元を図っていききたい。 ○特編の自習対策は対応できた。 ●日常的な自習の振替は課題のままである。			
	1 2	2. 基礎基本の定着	1. 自宅学習時間の増加を目指す。 2. 定期考査の円滑な実施と欠点保有者の減少を目指す。		1. 教科からの要求学習量の調査及び検証を行う。 2. 定期考査終了後の反省文の充実・特別指導の徹底を図る。				2.9	2.9	3.0	○自宅学習量については、調査を行った。 ●調査結果の活用について検証を含め十分にできていない。いかに自宅での学習時間を確保させていくのか、部活動との両立も視野に入れて取り組んでいきたい。 ●欠点の変更により、対応については今後も審議が必要である。			
	4	3. 校内外の学校活動の推進	1. 校内の諸活動の充実を図る。 2. 「オープンスクール」の中学生満足度80%以上 3. 「学校公開」の参加人数300人以上を目指す。 4. 保護者への情報発信を行う。		1. 実態に応じたコース登録・教育実習の円滑化・奨学金等をスムーズに行う。 2. 講座・説明内容の工夫を行う。 3. 年2回実施し、保護者、地域の小中学校への働きかけを行う。 4. 担任・学年・教務通信等で情報を発信していく。月2回程度。				3	3	3.0	○コースの在り方について審議を行った。 ●生徒の実態が進学校としてあるべき姿と乖離しつつある。今後も柔軟に対応していく必要がある。 ○オープンスクールは一昨年の形に戻り、多くの先生方の工夫・改善で成功裏に終わることができたが、実施日の課題は残った。 ●学校公開については、参観者の数をいかに増やしていけるかが、今後の課題である。 ○通信で情報の提供を行った。			
	1	4. 新教育課程に対するカリキュラムの作成	1. 学力に応じたカリキュラムの編成を目指す。		1. 教科主任会・改善提案委員会等を中心に本校に適したカリキュラムを検討する。				2.6	2.6	2.6	○暫定的な教育課程表は完成したが、大学の入試動向を踏まえ、今後も継続的に審議していかなければならない。			
生徒指導部	2	1. 基本的な生活習慣の確立と問題行動未然防止	1. 服装容儀検査での違反生徒0を目指す 2. 問題行動年間0件		1. 正門・靴箱での遅刻指導を行い、全校集会、学年集会で呼びかけを行い、先生方の常時指導の徹底、定期考査での服装容儀検査を実施する。 2. 学年主任や学級担任と連携をとり、気になる生徒の情報を収集した。				2	2.5	3.0	○朝の立ち番指導や定期考査中の服装容儀指導に加え、先生方の常時指導のおかげで非常に落ち着いた雰囲気であった。 ○問題行動はで6件の事案があったが、3学期には0件であり、全校集会や学年集会での指導の成果が現れている。 ●1年生の問題行動が目立つため、入学当初の適応指導や日ごろの指導を徹底していく必要がある。			
	2 4	2. 生徒が主体的に取り組む鳴海ヶ丘祭の実現	1. 在校生の80%以上が満足する鳴海ヶ丘祭 2. 例年通りの鳴海ヶ丘祭ではなく、実行委員が考え自分たちで作り上げる鳴海ヶ丘祭にしていく。		1. 実行委員が主体的に活動し、新企画を取り入れ例年とは違う文化祭にした。 2. 生徒全員が文化祭に参加するような企画を立案した。				3.5	3.5	3.5	○生徒会や実行委員が新企画を実施し、満足のいく鳴海ヶ丘祭にすることができた。 ●文化的な要素を含んだ文化祭にしていけるような企画・運営の必要性を感じた。			
	3 1	3. 部活動の充実と学習との両立	1. 部活動生の入部率8割以上 2. 部活動生の定期考査での欠点保有者（3科目以上）をゼロにする。 3. 部活動生の平日の学習時間確保のため始まるの時間と終了時間の厳守。		1. 生徒会を中心に新入生に対する部活動紹介を充実させた。 2. 部活動生集会を定期的に実施し意識向上に努めた。 3. 教務が行う家庭学習調査から部活動生の日頃の学習状況を把握する。 4. 派遣委員会で欠点保有者の対策をしっかりと検討していく。				2	2.3	2.5	○部活動生集会を定期的に開催することで部活動生の意識向上に努めることができた。 ●部活動生の家庭学習の実態把握ができていない。また、未だに部活動生の欠点保有者がいる。部活動生の学習と部活動との両立に向けて対策が必要である。			

	3	4. 礼儀指導の充実を図り社会的モラルやマナーの育成	1. 校内だけでなく校外での挨拶・マナーの向上を目指す。 2. 公共交通機関からの苦情ゼロ、地域住民からの苦情ゼロ 3. 交通事故・違反者ゼロを目指す。	1. 朝の立ち番や、定期考査中の全職員による立ち番指導により、日ごろからの挨拶の徹底を図っている。 2. 新入生の適応指導時に礼法指導を行うことで高鍋高校生として礼儀を身につけさせる。 3. 駅周辺の見回りを行ったり、放課後の見回りを行った。 4. 苦情の電話があったり、お褒めの電話等が外部からあったら、直ぐに全校集会やSHRで生徒に知らせ、周知徹底させた。	2.5	3.2	3.5	○挨拶は比較的良好にできている。 ●校外での交通マナーの苦情が後を絶たない。今後の課題として下校指導の徹底が必要になるし、また保護者との連携が取れるような体制を今後考えていきたい。
	2	5. 施錠・校内巡回の徹底による盗難防止	1. 各クラスの施錠係の施錠の徹底 2. 自転車盗難防止のための二重ロックの徹底 3. 盗難（自転車も含む）ゼロを目指す。	1. 各クラスの施錠係りの鍵の管理を担当の先生方を中心に行った。 2. 各クラスの交通安全委員に各クラスの施錠状況調査を実施した。 3. 警察と連携を取り、校外における無施錠防止のための取り組みに協力した。（思いやりロック）	2.5	3.5	3.6	○交通委員による無施錠チェックや警察との連携により、校内で無施錠の自転車が減少している。 ○自転車盗難が何件かあったが、金銭面における盗難の報告は1件だけであった。日頃から先生方が教室施錠を徹底していただいている成果であると考えられる。
進路部	1	進路実現に向けた学力を保障する	1. 基礎学力の定着 2. 学習意欲を駆り立てる工夫 3. 自学自習力の向上	①基礎学力養成講座の充実 ②難関大学講座の充実（12月末まで実施） ③課外・土曜講座の充実（現在まで9回終了）	3	3.3	3.1	○土曜講座のスタートが少し遅れたが、今年は来年度に向けて教科主任会でかなり議論を重ね、円滑な流れになると思われる。 ●進研模試のデータから見て、かなり例年より落ち込みが激しい。今後対策をしっかり練る必要がある。 ○3年の基礎学力や難関講座は意義があった。来年度も続けていきたい。
	2	キャリア教育を中心とした進路指導を充実させる	1. 学校と地域が協力して生徒の進路達成を図る	①進路講演会の実施（予備校講師による進学関係の講座及びノートになる前に受けておきたい講座の2回実施） ②出前講座の実施（看護関係と文学関係） ③高鍋わくわく講座（PTA職業講座） ④インターンシップの実施（生情科と2年総合で実施）	3	4.3	3.8	○進路講演会は特に6月の予備校講師を招いての概と、10月のノート講演は大きな刺激となった。 ○インターンシップは2年総合で10月に実施した、生情科は来年度は一学期に実施する。 ●キャリア教育は年度始めにしっかり計画を立てる必要がある。
	4	進学校として地域のニーズに応える	1. 国公立大学の合格者を多く出す 2. 生情科・総合コースの進路達成	①進学実績を上げる ②就職指導の充実 ③進路説明会の開催 ④推薦入試の活用	3	3	3.3	○前期85、中期2、後期67の出願者を出したことは一つの大きな成果である。二次に夢を繋げた。 ○就職内定率は昨年同様100%を達成できた。 ○推薦入試対策として、5～6月に九州圏内を中心に各近隣国公立大学を視察研究したが、そのほとんどの大学に出願できたことは大きい。ただ、次年度は推薦要項が出揃う時期を待って視察をしていきたい。
	1	読書指導・小論文指導の充実	1. 新刊図書や視聴覚教材などの積極的購入と紹介 2. 弁論・小論文コンクール・小論文模試へ参加し、評価を向上させる。	1. ・図書職員による購入図書選定に加え、職員・生徒からの購入希望調査を実施し、確実に予算執行を行う。 ・生徒図書委員による店頭購入の実施。 ・新刊案内とライブラリー通信の発行。 2. ・明倫の時間において、弁論・小論文コンクール・模試の原稿作成指導計画立案。	3	3	3.0	○本年度2月17日現在で955冊の図書購入を行い、新刊案内やライブラリー通信等の発行なども通して紹介できた。 ●貸出冊数は、同日現在で4831冊と昨年比13.7%の減少となった。3年生は着実に増加したものの、特に2年生の減少が著しく、その原因等を分析して来年度に生かしていく必要がある。 ●明倫の時間の指導については例年どおりであったが、次年度のキャリア教育との関連での見直しが必要である。
図書部	2	生徒図書員活動の充実	1. カウンター業務など日常業務を確実にこなせる。 2. 読書週間や学校祭などにおける活動を工夫させ、来館者や貸し出しの増加につなげる。	1. ・カウンター業務やライブラリー通信発行の当番制の実施。 ・館内清掃や図書整理の徹底。 ・学校行事における記録ビデオ撮影担当。 2. ・読書週間の企画検討・準備等の実施。 ・学校祭における古本バザーの開催と益金の寄付。 ・読書会などの新企画の検討。	3	3	3.2	○カウンター業務等概ね良好であった。 ○読書週間においては、図書委員長の放送による紹介や、雑誌等の持ち帰りコーナー設置、特定の作家を取りあげたコーナーの設置などの工夫が行われ、期間中の来館者の増加につながった。 ○古本バザーでは3470円の益金があり、東北震災の義援金にあてた。 ●例年の行事等は軌道に乗っているが、新企画などそれ以上の積極性にやや欠ける面があるので、それをどう指導していくかが課題である。
	3		1. 来館しやすい空間を作ることで、来館者や貸し出しの増加につなげる。	1. 書架購入および廃棄処理の徹底。 ・机配列や新刊配架の定期的な見直し。 ・美術との提携による生徒絵画等の展示。 ・自習室としての開放（19：00まで）。	3.5	3.5	3.8	○書架購入や廃棄処理など順調に進んだ。また閲覧室内のレイアウトの工夫や生徒絵画等の展示なども定期的に行い、環境整備の充実が図られた。 ○職員室からの図書検索ソフトであるCASAWEBの導入や、遮光カーテン設置とプロジェクターの導入により閲覧室内での視聴覚教材を利用した授業等が可能な環境も整備することができた。 ●閲覧室の冬の寒さ対策が大きな課題となっている。
	1		1. 来館しやすい空間を作ることで、来館者や貸し出しの増加につなげる。	1. 書架購入および廃棄処理の徹底。 ・机配列や新刊配架の定期的な見直し。 ・美術との提携による生徒絵画等の展示。 ・自習室としての開放（19：00まで）。	3.5	3.5	3.8	○書架購入や廃棄処理など順調に進んだ。また閲覧室内のレイアウトの工夫や生徒絵画等の展示なども定期的に行い、環境整備の充実が図られた。 ○職員室からの図書検索ソフトであるCASAWEBの導入や、遮光カーテン設置とプロジェクターの導入により閲覧室内での視聴覚教材を利用した授業等が可能な環境も整備することができた。 ●閲覧室の冬の寒さ対策が大きな課題となっている。

保健 環境 部	2	1. 「師弟同行」「集中・機敏・奉仕」の理念による環境美化意識の啓発	1. 2分前予給による清掃活動を行う。「師弟同行」により気持ちよく育む。 2. ゴミ分別100%を達成する。ゴミ減量化に取り組む。 3. 保健委員会による手洗い場点検等、美化委員会によるゴミ分別と美化点検、緑化委員会による潤いのある環境作り。	1. 共に活動する唯一の機会を利用し、師弟のコミュニケーションもとれていた。 2. 古紙の重さを毎日測定し、月ごとにまとめた。職員のゴミ分別体験により、実態を把握した。 3. 各委員会活動と連携し、校内美化に努めた。美化・花壇コンクールにより活動意欲の増進を図った。	3	2.7	3.0	●師弟がともに活動を共にしながら、各場面で自ら動く生徒を増やしていく。 ○美化委員はよく動いており、緑化委員も花壇の維持・管理は概ねできた。 ●まだ主体的な活動は十分ではない。 ●美化意識の育っていない生徒は、清掃面では気の利く生徒に支えられ一応環境美化は達成されているが、生活面において公共の場と認識させる周囲の厳しい目が必要。
	2 3	2. 防災管理の徹底と、施設・設備の管理	1. 防災訓練の集合目標時間を7分とする。 2. 施設・設備の維持・管理に努める。	1. 避難までの職員の動き等を再考する。「安全点検」(各学期)実施により、安全で快適な環境作りをした。 2. 事務と連携し、故障や修理箇所の要望を吸い上げ、迅速に対応した。また清掃用具の補充も定期的に行った。 3. 津波に対する防災計画と訓練を実施し、携帯メールによる連絡手段も確立された。	3.7	3.7	3.7	●津波避難に関しては、日向灘沖地震を想定して避難方法を再考する。火災の避難訓練では、職員の動きを再考する。 ○「安全点検」実施により、校内施設の修理箇所がよくわかる。清掃用具の補充は可能な限りできた。
	3	3. 健康安全教育の推進	1. 危機管理体制の充実 2. 健康管理能力を育む 3. 心の健康の充実	1. 行事毎に健康調査・健康相談の実施 2. 要管理生徒の指導の徹底と情報の共有化 3. 救急法の職員研修 4. 来室時の個別指導 5. 「ほげんだより」、掲示物等による啓発活動 6. 教育相談部・担任・関係職員等との連携	3.2	3.2	3.2	○目標・計画はほぼ実施できた。 ●健康診断の実施方法について検討していく。 ●多様な生徒の来室があるが、保健室の特性を生かしながら教育相談部・担任・関係職員等と連携をとりながら、その生徒に応じた対応に努めたい。
教育 相談 部	2 3	・速やかな対応	①心理検査の実施と活用。 ②担任・学年会・保健室からの情報収集。 ③全職員の共通理解を図るための情報提供。	1. 生徒理解調査STARTを実施する。 2. 保健室や担任との連携や情報の共有化を図る。	3	3	3.0	○計画していた取り組みについては実施できた。 ●生徒の悩みに速やかに対応するために、次年度は合格発表後に中学校と連携を取ることでできる機会を設けたい。
	2 3	・生徒・保護者・職員の支援	①生徒・保護者へのPR活動。 ②相談室の環境整備。 ③教育相談週間の実施と活用。学級担任・教科担任・部顧問および保護者との連携。	1. 相談室を活用する。 2. 教育相談週間を実施する。 3. 時期をとらえた支援を行い、全職員の共通理解を目指す。	3	3	3.0	○今年度は相談室を利用する生徒は少なかったが、必要に応じて活用することができた。 ○教育相談週間を年3回実施した。件数としては学習・進路に関する相談が多かった。これらは担任の先生に面談をお願いすることが多く、人数が増えると負担も多くなるが、今後も連携をとって協力をお願いしていきたい。
	2 3	・生徒支援内容の向上	①部会において、情報交換や事例研究を行い、適切な支援を組織する。 ②全職員を対象にした職員研修会の企画。 ③職員の個人研修のための資料提供。	1. 教育相談関係の職員研修会を実施する。 2. 関係職員・保護者・外部機関との連携を図る。 3. 月刊誌『学校教育相談』を活用する。	3	3	3.0	○11月に研修会を実施した。 ○次年度は教育相談部からも様々な情報や生徒に伝えたいことなどを積極的に発信していきたい。
渉外 厚生 部	1	生徒の進路目標設定	①研修の実施、参加促進	1. わくわく講座を進路指導部と協力して実施する 2. PTA視察研修の行き先に裁判所、企業を加える	なし	4	4.0	○良い形で実施できた。2年目となり安定感がでてきたように感じる。成果は長い目でみれば必ずある。 ○県内日帰りにしたことで、時間的・経済的負担が軽減され、保護者は参加しやすくなった。高校訪問の代わりに裁判所と企業を入れたことで研修の質が高まった
	2	学校美化への取り組みと学校行事の推進	①奉仕作業の企画と参加促進 ②鳴海ヶ丘祭へのPTAによる協力	1. PTA奉仕作業を実施する 2. PTA売店委員会による氷、唐揚げ、クレープを販売する	なし	3	3.0	○生徒、職員、保護者の積極的な協力のおかげでしっかりと取り組めた。 ●生徒は喜んでいたが、個人発表の観客が減る、食物パザーと重なるなど弊害も指摘された。
	4	職員・保護者の研修の機会	①研修の実施、参加促進	1. 全国、九州、県、地区高P連主催の大会に参加し、情報を生徒に還元するよう努める 2. 支部研修会を実施する	3	3	3.0	○情報の生徒への還元は、参考図書購入し、教室に一定期間その本を置く工夫をした。 ●全校集会の活用など、なお工夫の余地がある。
	4	職員・保護者の意思疎通と親睦の機会	①会議やイベントの実施と参加促進	1. PTA理事会の実施(年6回) 2. PTAレクリエーションの実施(年1回) 3. 母親委員会の活動を援助する	3	3	3.0	○早目の準備、打ち合わせにより、有意義な会を実施できた。 ●時間を考慮したスムーズな運営とけが防止が望まれる。 ○鳴海ヶ丘祭時のパザーは、今年より中止した。 ●調理実習や門松作りなど「生徒のため」が見えにくい母親委員会のありかたについては、なお検討の余地有り

	4	保護者や生徒への情報提供	①広報活動	1. 広報委員会によるPTA新聞の作成・発行(年4回=1学期2回、2、3学期各1回)	3	4	3.5	○充実した内容のPTA新聞を発行することが出来た。
広報部	4	1. 保護者や地域のニーズを的確につかむために広聴活動を積極的に評価する。	1. 小中学校を積極的に訪問する。 2. PTA組織・OB会、塾やマスコミ等との連携を進める。	1. 管内全小中学校の管理職の会合を開催し、ニーズの掌握に努める。 2. 年度当初に管内の全中学校を訪問し、ニーズの掘り起こしを行う。 3. 塾講師からの情報収集に努める。 4. OB会や中学校の研究会等の諸会合に出席し、情報収集に努める。	3	3	3.0	○中学校訪問や塾講師との会合、中学校の研究会等への出席などは予定通り実施され、ニーズの掘り起こしに努めた。 ●児童生徒のニーズの掘り起こしを行う必要がある。 ●「職員一人一人が広報担当」という意識改革を十分に進められなかった。
	4	2. 高鍋高校の良さをアピールするために広報活動を積極的に展開する。	1. 小中学校を積極的に訪問する。 2. マスコミの有効活用を図る。 3. 広報手段の創造・活用を図る。 4. 高校説明会の改善を図る。	1. 年度当初に管内の全中学校を訪問し、PRに努める。 2. 機会あるごとに新聞社へ取材を働きかけ、高鍋高校を数多く記事にしてもらう。 4. ホームページ・広報誌等の積極的な活用を行う。	4	3	3.0	○予定していた広報活動はすべて実施され、説明責任は果たした。 ●結果責任を果たすことはできなかった。つまり、高鍋高校への志望倍率1.00以上を達成できなかった。 ●「職員一人一人が広報担当」という意識改革を十分に進められなかった。
	4 2	3. 小中学校や地域との連携を積極的に図る。	1. 小中高・地域連携の企画を創造する。・出前授業を積極的に行う。	1. 「都農尾鈴マラソン大会」を活用し小中高・地域連携の企画を実行する。 2. 管内の全中学校で出前授業を実施する。	3	3	4.0	○「都農尾鈴マラソン大会」、「出前授業」に関する企画は、予定通り実施された。 ●職員間・児童生徒同士の人的なつながりを、さらに深化させなければならない。
事務部	1 4	1. 教育課程に対応する計画的・効果的な予算執行に努める	1. 教育活動を支援する効果的な予算執行を行う 2. 教育環境を充実する備品等の整備と管理に努める 3. 予算執行の効率化と不要な経費の削減に努める	1. 要求に迅速に対応することが効果的な予算執行に直結する。 2. 要望のあった物品については、予算の許すかぎり調達していく。同時に管理には各部・各教科に協力をお願いする。 3. 適期に適正に執行することを常に心がける。	2.8	2.8	2.8	○ほぼ達成できた。 ●備品の保管場所のチェックを今後とも定期的にも実施していただきたい。
	1 2	2. 学習環境の安全管理対策及び校内美化の支援に努める	1. 校舎等施設設備の充実・保全を図る 2. 環境保護促進に努める	1. 不具合箇所の早期補修に努める。 2. 保健環境部のゴミ減量の取組みを支援していく。CO2削減の観点からも節電(こまめな消灯)・節水に全校あげて取り組む。	2.3	2.3	2.3	○ほぼ達成できた。 ●「昼休みの消灯」に職員・生徒のさらなる取り組みをお願いしたい ●24年度は第4棟に耐震補強工事が本庁執行にて入る。工期は10月頃から3ヶ月くらいか。このため、2学期は第4棟の講義室が使用できないので、使用計画の練り直しをお願いする。
	4	3. 事務分掌の明確化と責任体制を確立し、事務の効率的運営・改善に努める	1. 行政サービス向上に努めると共に校務能率向上に努める 2. 校務が滞ることのないよう各部、各学年との連絡を密に適正的確な事務処理につとめる 3. 学校徴収金滞納0を図る	1. 学校の窓口であることを自覚し、電話・来校者等に丁寧に対応する。 2. 様々な学校行事が滞りなく実施されるために、電話連絡・文書送達・予算執行計画など各部・各係との連絡を密にしていく。 3. 学級担任と情報・意見を交換しながら、ねばり強く取り組む。	2.7	2.7	2.7	○ほぼ達成できた。 ●学校徴収金滞納分の徴収は毎年度難儀する。
1学年	1 2 3	生徒の可能性を最大限に伸ばし、3年後に個々の進路実現を達成させるための基礎づくりをする。	1. 進路目標の早期設定 2. 各種模試の精選と活用 3. 自宅学習平日3時間	・適応指導の徹底 ・オープンキャンパス参加 ・厳格な提出物のチェック ・基礎基本の定着指導	2.6	2.8	2.6	●進路意識が未熟で、常に指示待ちの態度が目立った。 ○普通科全員で宮大のオープンキャンパスに参加して進路意識が高まった。 ●模試結果の教科分析が不十分であった。 ●2学期以降学習意欲が減退する一方で歯止めがきかなかつた。 ●自宅学習の習慣化に課題が残る。 ○提出物は徹底できた ●基本的な学習習慣が身につけていない生徒が多く、継続した指導が必要である。
	2	基本的生活習慣の確立を図ると共に、自主性・積極性を養う。	1. 遅刻、欠席、早退 0 2. 問題行動 0 3. 容儀指導不合格者 0 4. 未提出物 0	・適宜学年集会を実施 ・適応指導の実施 ・生指部との連携	2.3	2.3	2.4	○一部を除き概ね良好であった。 ○テスト期間中の朝自習実施で落ち着いた雰囲気・空間が作れた。 ●携帯電話所持を含め問題行動が多く、全体的に幼ない言動がみられた。 ●2学期後半から不登校傾向の生徒が増加した。 ●相変わらず容儀指導で指摘される生徒がいる(容儀指導のやり方を検討すべき) ●課題の未提出者が固定化している。

	3	「文武両道」の理念の元、限られた時間で部活動に集中して取り組ませ、優れた人格形成を図る。	1. 部活動加入率 80%以上 2. 1年生大会 入賞4団体以上 3. 下校時間の遵守(宅習時間確保)	・下校指導の実施	2.6	2.4	2.3	●部活動の下校時間が徹底しておらず、一部の部活動生において帰宅時間がかかり遅い者もいる。 ●部活動生で課題を十分にやれてない生徒がいる。 ●優れた人格の形成に至るまでには、今後も指導を継続する必要がある。 ・77% (5/23付け) ・ラグビー2位
	4	家庭との連絡を密にし、生徒・保護者・学校の三位一体の協力体制を築く。	1. 不登校 0 2. 三者面談の実施 3. 学年PTAの実施	・各種集会への参加呼びかけ ・学級懇談会の充実 ・学級通信の活用 ・成績不振者集会の実施	3.1	2.9	3.0	●3学期に不登校の生徒が増加し、担任が対応に追われた。 ○概ね保護者との連携はとれた。 ●今後も保護者と連携し、学校との協力体制を密にしていく必要がある。
2学年	1	1. 主体的学習習慣の確立 基礎学力の向上	1. 宅習時間の確保 (3h) 2. 定期テストでの欠点者前年比減 3. 課題・小テスト・提出物の徹底	1. 教科担・HRTとの密な連携による下位者対策 2. 宅習調査・学習会の実施 3. 各種課題等の期限厳守の指導徹底	2.5	2.5	2.3	○宅習調査・学習会を実施し、学習意欲の向上に努めた。 ●下位層の反応が良くなく、取り組み・結果共に2極化をおこなっている。 ●定期テストの欠点者が固定化してきた。 ●学習習慣がまだ身につけていない者が多い。課題の提出の悪い者も固定化。 ●休日の過ごし方が課題である。(特に長期休暇)
	2	2. 基本的生活習慣の確立	1. 常時の生徒指導 2. 環境美化への積極的な取り組み 3. 遅刻・欠席/特別指導前年比減	1. 服装容儀・挨拶・交通関係のルールを守る等の指導 (常時+節目での学年集会) 2. 師弟動向による清掃活動 3. 保護者・生徒指導部との連携	2.9	2.9	2.9	○服装容儀面は、修学旅行後乱れが見えたが、年間通してみれば小康状態。 ●清掃の取り組みが遅かったり、師なしで自立した作業ができていない。 ●携帯電話持ち込みや交通法規違反が各学期共にあり、今後も継続して指導する必要がある。 ●遅刻・結成に関しては、保護者等との連携をさらに深めたい。
	3	3. 進路目標の具体的な設定	1. オープンキャンパス全員参加 2. 難関大志望者前年比増 3. 面談実施 4. 就労体験・職業観の育成	1. 九大・熊大・鹿大・宮大・看護大へ生徒引率 九工大校内説明会 及び レポート提出 2. 難関大志望者向けの個別指導・パワーアップセミナー参加指導 3. 面談実施 (2者・3者) 4. インターンシップ実施協力(206/207) 5. 進路との連携	2.5	3	3.0	○全員がオープンキャンパス/研究レポートのいずれかに参加し、進路意識を高めた。 ●3学期には志望理由や自己推薦書を書かせたが、継続しての指導が必要。 ●上位指導がまだ不十分である。もう少し層を厚くしたい。 ○必要に応じて面談を実施した。 ●LHR等でもっと2者面談の時間が必要である。 ○一部クラスであったがインターンシップを実施。インターン先でも評判が良かったようだ。
	4	4. 中堅学年として諸活動への主体的な取り組み推進	1. 部活動への積極的参加 2. 各種ボランティアへの参加 3. 各行事への参加	1. 文武両道を目指し、部顧問と連携 2. 学友団活動への積極的な取り組み 3. ボランティア委員会との連携による校外ボランティア活動参加の奨励 4. 学校行事への積極的な取り組み奨励	3.1	3.2	3.2	○部活動のコアとして意欲的に活動し、ある程度の結果を残せた。 ●学友団活動では、3学期より2年生が主体となるのでより積極的に取り組ませたい ○社協等の校外ボランティアにもよく参加し、尾鈴マラソン等でも活躍した。 ●今後は、行事への参加だけでなく、牽引役の自覚を持って取り組ませたい。
	1	主体的学習習慣を確立を図り、進路目標を達成できる学力を身につけさせる。	1. 基礎学力の定着 2. 3年生全員の卒業 ○自学自習力の向上	①授業が勝負を徹底する。 ②個別指導を充実する。 ③学習会・宅習調査を実施する。 ④課題・小テストの指導を徹底する。	3.2	2.8	3.0	○難関対策講座、探求講座を実施し、個に応じた指導を実施した。 ○長期休業中(春・夏・冬)の学習会、学年独自の宅習調査を実施し、自学自習力の育成を図った。 ○朝読書時に『朝論』(新聞記事を読ませ意見を書かせる)に取り組み、小論文対策に取り組んだ。
3学年	2	思いやりのある豊かな心を育て、基本的生活習慣の確立を図る。	1. 常時の生徒指導の徹底 2. 校内美化 3. 和を大切にした学年	①容儀、挨拶、登下校等の常時指導をする。 ②清掃指導を行う。 ③家庭と連携を密にする。 ④学年集会を実施する。	3	3	3.0	○容儀面は全般的には良好であった。 ●容儀指導のときだけという生徒も一部いた。常時指導のさらなる徹底が必要である。 ●清掃は取り組みは真面目であったが、取りかかりが遅かった。 ○学年集会を定期的にも実施し、生徒及び職員が話をする事で学年としてのまとまりができた。

牛	1 4	計画的な進路指導を実施し、生徒の進路実現を図る。	1. 3年生全員の進路目標達成 2. 国公立大学80名以上の合格	①入試の研究・対策を行う。 ②就職支援者への支援を充実する。 ③二者・三者面談を実施する。 ④対外模試の事前・事後指導を充実する。	3.2	3.2	3.2	○5月、6月に大学視察を行い、早期より推薦対策を行った。 ●国公立大学推薦合格者数は昨年より減ってしまった。宮崎大学への合格者をいかに増やすかがカギである。 ○就職は100%の合格率であった。担当の先生に感謝したい。 ○「合格へのプロセス」を用いて、模試の反省、月別の教科の計画を立てさせ、模試の事前事後指導に役立てた。
	3	最高学年としての自覚と責任を持って諸活動に主体的に取り組むように指導する。	1. 部活動の上位入賞 2. 鳴海ヶ丘祭の成功 3. 学友団活動の充実	①「文武両道」に取り組ませる ②学校行事へ主体的・中心的に取り組ませる ③ボランティア活動への主体的参加を促す。	3	2.8	2.9	○部活動はどの部も意欲的に取り組み、ある程度結果も残せた。 ○生徒会を中心に学校行事によく取り組んでいた。 ●本校独自のボランティア活動である学友団活動は、回数も減ったので中身をさらに充実させる必要がある。
	1	専門科目における知識と技術の定着指導	1. 各種検定合格率の上昇	1. 各検定、受検級ごとの担当者が合格困難な生徒を把握し、個人指導を行う 2. 合格レベルに達していない生徒への放課後指導を行う	3	3	3.0	○生徒の生活経験が乏しい中、食物調理技術検定および被服製作技術検定の指導が難しくなっているため、今年度から4・3級を二人指導体制に変え、基礎的な内容の徹底指導を行った。 ○火曜と木曜の放課後を活用し個人指導を行った。 ●指導が必要な生徒は他教科でも再テストや放課後指導が重なり、時間確保が困難であった。
生活情報科	2	地域との連携	1. ボランティア活動の呼びかけ 2. 地域の方の授業参加交渉	1. 地域行事へのボランティア参加を呼びかける 2. 地域の方を外務講師として招聘し、生徒と地域との繋がりを作るきっかけとする	3	4	4.0	○にしん保育園で行われた運動会のサポートボランティアでは職員の方だけでなく園児の保護者の方からも感謝された。 ○都農もりあげ隊、高鍋町農村女性アドバイザー、西都児湯茶業振興協議会、児湯地区花卉生産者連合会、児湯農林振興局と連携し講習会などを行った。
	3	学校行事への貢献	1. 各行事への積極的参加 2. 定期的、持続的な食育活動の実施	1. 鳴海が丘祭においてファッションショー、食物バザー、ホームプロジェクト発表を行い、生徒の主体性や積極性を養う 2. お弁当の日、お弁当コンテストを実施する	3	3	3.0	○鳴海が丘祭において、1年生ファッションショーモデル、2年生食物バザー、3年生ファッションショー衣装製作とそれぞれ役割を果たし、企画・実行していくなかで成長が見られた。 ●お弁当の日は2年目を迎えたが、普通科生徒の参加が少ないため、今後は実施方法や呼びかけ方など必要である。
	4	学科のPR	1. 高校説明会への参加 2. オープンスクール、学校公開における学科PR	1. 各中学校で行われる高校説明会に参加し学科の特徴や独自の取り組みなどを紹介する 2. オープンスクールにおいて学科紹介のスペースを作り、生徒作品などの展示を通して中学生にアピールする	1	3	3.0	○中学校で行われた高校説明会に分担して参加し、学科の紹介を行った。 ○学科での特徴的な取り組み（地域との連携した講習会）を宮日新聞に取り上げていただいた。 ●学校HPの生活情報科分を細かく更新したいと考えてはいるが、日々の業務に追われ更新できなかった。広報部との話し合いの必要性を感じる。

